

EPA候補者受入事例について

独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院

総務企画課 福村 航



独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院

○沿革

- ・ 前身は社会保険病院
昭和21年に設立。
- ・ 平成26年4月に社会保険
病院から地域医療機能
推進機構（JCHO）へと
移行。
- ・ 公設公営の病院として
地域医療に貢献すること
が最大のミッション。



独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院

- 山口県東部の地方都市である周南市に立地。
- 徳山駅からバスで20分程度の所に位置し、住宅街の中にある。
- 周南市を中心とする周辺3市を含めた約26万人の医療圏の基幹病院。





独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院

○許可病床数 519床

- ・一般病床 435床
- ・第二種感染症病床 12床
- ・緩和ケア病床 25床
- ・ICU 10床
- ・NICU 12床
- ・救命救急病床 25床

○病床稼働率は90%以上
を維持



徳山中央病院の概要

(平成25年度実績)

- 職員数 : 1087 名
- 医師数 : 122 名
- 看護師数 : 565 名
- 標榜診療科数 : 28 科
- 1日平均入院患者数 : 478 名
- 1日平均外来患者数 : 1439 名
- 平均在院日数 : 14.4 日
- 7対1看護基本料を取得

徳山中央病院の病院機能

○地域の基幹病院

- ・ 地域医療支援病院
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
- ・ 小児救急医療連携拠点病院
- ・ 地域周産期医療母子センター
- ・ 地域災害拠点病院
- ・ 休日・夜間こども急病センター
- ・ 救命救急センター

○医学教育的な役割

- ・ 医師・歯科医師の臨床研修指定病院であり、毎年15名程度の研修医を受入れ、研修医教育に力を入れています。
- ・ 看護、薬学、その他コメディカルの臨床実習の受入れも積極的に行っている。

EPA看護師候補者を受け入れるまで

- ・平成21年度 社団法人 全国社会保険協会連合会
が受け入れを決定し、7施設で13名を受け入れ。
- ・平成22年度 6施設11人の受け入れ。
当院も受け入れを開始。インドネシアから2名の看護師
候補者とマッチング。
- ・平成22年8月に入国。AOTS中部研修センター
(愛知県)にて研修を4ヵ月実施。入国前、入国後併せて
日本語研修を入職前に6ヵ月実施。
- ・平成22年12月に当院に入職。処遇は当院の看護
助手待遇とした。

○宿舎について

候補者2名のために宿舎を提供。
病院から徒歩3分に立地。

2DKのアパートの
上下階に候補者2名が入居。



○備品などについて

机、椅子、ベッド、家具、テレビ、
エアコン、照明、冷蔵庫、洗濯機、
調理器具、食器等、生活に必要な
道具一式を病院で用意。

本人たちと一緒に買い出しに出かけ、
必要な生活用品全般を揃えた。

自転車も購入した。

受入れにあたって準備したこと（院内）

○院内に学習室を設置

- ・ 学習室には各自にノートパソコンを用意し、プリンターを設置。
- ・ 電子辞書を貸与し、医学辞典、参考書（日本語、看護）も用意した。
- ・ 当時院内のインターネット環境が整備されていなかったもので、学習室でインターネットを利用できるように工事を行った。
- ・ 休憩時にお祈りができるように、スペースの確保と、マット等の備品を用意した。（病棟の休憩室も同様）
- ・ 連絡が取りやすいように職員用のPHS電話を提供した。
- ・ 慣れない寒さに備えてヒーター等、暖房器具を多めに備えた。

生活の支援について

○母国とは異なった環境で候補者が自立した生活を送ることができるように支援を行った。

- 住居と病院周辺の施設の案内
(スーパー、コンビニ、銀行、郵便局、レストランへの案内。
鉄道、バスの乗り降り、路線のことなど公共交通機関の案内)
- 水道、電気、ガス等利用申込み
- 宗教施設への案内
- 外国人登録
- 銀行口座、郵便局口座の開設
- 入国管理局でのビザ更新の手続き
- 一時帰国の手続き
- 外部での研修会、国家試験受験等、遠隔地での行事の際の宿泊手配、交通手段の案内等の支援

就職時 研修プログラム

インドネシア人看護師候補者 看護研修プログラム

		計画		実績
12月	生活調整	日常生活に必要な日本語学習	衣食住に関するオリエンテーション	実施
	学習	日本語能力到達度の把握	①日本語理解力テストの実施 ②日本語教師による日本語能力のチェック・面談 (口頭表現・作文・聴解・読解)	①実施。②については職場適応や看護関連の学習を重視したため実施せず
	職場適応	病院職員としての心構え	オリエンテーション	実施
病院職員との交流 日本の生活習慣に身近に触れる		①病院忘年会への参加、挨拶スピーチ ②年末年始のホームステイ、初詣	①②ともに実施。また買い物やゴミ出しの方法や場所を一緒に確認。警察関係者による防犯・安全に対するオリエンテーション実施	
1月	学習	看護師国家試験受験準備のための学習	分野別の教育担当者による過去問対策授業 (90分/回、週3日)	分野別には実施できていないが、所属部署看護師が過去問を共に回答しながら学習を行った
		日本語専門学習の実施	①AOTS で使用した日本語教材の復習 ②日本語教師による教材を用いた学習 (90分/回、週2回) ・日常会話の実践 ・個々の能力・課題に沿った学習 ・漢字・仮名の自己学習と確認	①実施 ②日本語教室の利用を図ったが、適当な講座がなく中止
		集合学習への参加	模擬試験の受験	職員同行で福岡へ
	職場適応	業務や日常生活での対人関係に慣れる	看護業務の現場担当者が対人関係での個々のコミュニケーション能力を把握し、問題点や到達度について日本語教師と連携しながら会話能力向上に努める(連絡帳等の活用)	職場における病院の習慣、臨床での日本語理解、患者や職員とのコミュニケーションを、臨地で経験
2月	学習	看護師国家試験受験準備のための学習	1月からの継続 自己学習時間の増加	e-ラーニング導入、院内での学習時間に活用できている
		日本語専門学習の継続	敬語等待遇表現も含めた学習	職員との会話、臨地での経験から学習
		集合学習への参加	模擬試験の受験	職員同行で福岡へ
	職場適応	看護師国家試験受験		職員が同行して 2.20 広島会場で受験
職場適応	業務や日常生活での対人関係に慣れる	業務や日常生活でのコミュニケーション(会話・伝達事項の引継ぎ等)において支障がないか確認しながら、できることを増やしていく	日々の業務について、また学習面や生活面で問題や悩みを抱えていないか面談しながらサポートしている	

病院主催の忘年会にて

職員700名が参加する
病院忘年会にて。

入職して間もない頃
お二人とも、日本語で
立派なスピーチを披露し
て頂きました。



職員宅でのホームステイ

年末年始に職員宅でホームステイし、おせち料理や初詣を体験しました。



生活支援者として気をつけたこと

○2名の候補者それぞれの慣習、文化的、宗教的な背景を考慮した。

→1名はキリスト教徒

- ・ 本人が信仰する宗派の地元の教会に案内した。
- ・ 食事、飲み物等の制限を考慮。
- ・ 金曜日の勤務終了後と教会での礼拝がある土曜日は本人にとって安息日であるため、病院行事をなるべく入れないように配慮した。

→1名はイスラム教徒

- ・ 勤務時間中のお祈りの時間を確保するために、休憩時間を分割して取得できるように配慮した。
- ・ 候補者の学習室、病棟にお祈りができるようなスペースを設け、マットなど必要な備品を備えた。
- ・ 食事、飲み物等の制限を考慮。
- ・ 断食月等の宗教的な慣習への理解。

○長期休暇の取得への配慮

- ・ 1年に1回は、なるべく長期間（2週間程度）帰国できるように配慮した。
例）年末年始の時期に、年末にかけて年次休暇を取得した。
- ・ 看護師候補者の家族の都合（病気等）により、1ヶ月間の長期帰国を2回認めた。

看護師候補者の1日のスケジュール①

8 : 30 ~ 15 : 45
(休憩45分)

配属病棟で看護助手として
毎日看護師とペア
を組んで患者さんの
ベッドサイドへ



看護師候補者の1日のスケジュール②

勤務時間内も時間があれば学習に取り組み、わからないことは病棟のスタッフに聞いて確認します。

また、患者さんやスタッフと日本語で会話をすることで日本語会話の聞き取りや表現を学んでいます。



看護師候補者の1日のスケジュール③

15 : 45 ~ 17 : 15

院内の学習室で自己学習

〈主に使用する教材〉

e-ラーニング（過去問題）

オンデマンド研修

自己学習について

平均3～4時間
自宅で自己学習を
行った。

電子辞書や
インターネットは
必需品。



学習支援について

- JICWELS主催の集合研修へ参加（福岡）
- NPO団体主催の研修会に1ヶ月2回参加（広島）
 - * 公休を利用して受講、費用は病院負担
- 日本語講師による日本語学習 週に1回2時間
 - * 勤務時間内に受講、費用は病院負担
- 国家試験対策として
 - 2回目の国家試験前3ヶ月は病棟勤務を午前中のみとし、午後は各科看護科長が分野ごとに担当し個別指導を実施した。

日本語研修について

○外部日本語講師による講義：週1回 2時間

- ・ **指導者**：周南市とその近郊在住の日本語講師5名（大学講師等を含む）
- ・ **主に使用したテキスト**
「新日本語の中級」全20課（スリーネットワーク）
1課につき4～6時間の学習とした。
- ・ **目標**
文法や語彙を増やすことにより日本語運用力を向上させ
職場でのコミュニケーションが円滑にできるようにする。
- ・ **指導の流れ**
 - ①前回の復習[30分]
 - ②今回の学習[70分]
 - ③次回の確認[20分]
- ・ **日本語指導連絡ノートの活用**
病院と指導者の間で授業内容の報告・連絡等の情報交換に使用

効果的な学習方法

- 過去問題を規定時間内に解きつづける。

紙面で過去問題を解くのもよいが、
e-ラーニングで過去問題にチャレンジすると
一定時間内で問題を解くトレーニングになる。

⇒ 国家試験対策に有効

看護師候補者2名の受入れ後の経過

- ・ 2010年12月 当院入職。候補者2名ともに泌尿器科病棟にて看護助手業務として勤務
- ・ 2011年2月 **看護師国家試験受験1回目→2名とも不合格**
- ・ 2011年5月 外部日本語講師を招聘。院内にて日本語講義を月に2回受講。
- ・ 2011年8月 NPO団体（広島）にて集合研修を受講開始。日本語、看護両面での学習サポートを得る。
- ・ 2011年9月 候補者1名が消化器内科病棟に移動。
- ・ 2012年2月 **看護師国家試験受験2回目→1名合格、1名不合格**
- ・ 2012年4月 **看護師候補者1名がEPA看護師として引き続き勤務**
引き続き泌尿器科病棟勤務。
- ・ 2013年2月 **看護師国家試験受験3回目→不合格**
- ・ 2013年4月 看護師候補者1名が特例措置として1年延長
- ・ 2013年6月 EPA看護師看護師1名が泌尿器科から手術室へ移動
- ・ 2014年2月 **看護師国家試験受験4回目→不合格**
准看護師試験受験→合格

EPA看護師候補者AさんとEPA看護師のBさん

Aさん
看護師候補者
として現在
病棟勤務
本年7月末に
帰国予定。

Bさん
EPA看護師
として現在
手術室に勤務。



看護師候補者 A さんの日常業務

○現在消化器内科病棟に勤務

- ・泌尿器科病棟に1年9ヶ月、消化器内科病棟に2年7ヶ月勤務。

○看護助手としての業務

- ・配膳、ベッドの作成、環境整備の他、看護補助者としての業務を現在中心に行っている。
- ・患者さんのケア（重症患者さんの体を拭く等）、洗髪、食事介助、搬送など看護師とペアを組み、看護補助業務を行っている。食事介助は1日3、4名程度、患者さんのケアは1日約5～10名。
- ・患者さん、スタッフとのコミュニケーションを円滑に行うことができ、仕事面でも自立し、単独で行うことが出来る業務が増えた。



EPA看護師Bさんの日常業務

○現在手術室に勤務

- ・EPA看護師となって2年が経過。泌尿器科病棟での1年2ヶ月の勤務を経て、手術室で約1年間勤務している。
- ・器械出し看護に従事。
産婦人科、泌尿器科外科の手術を主に担当。
1日に1～2件手術を担当。
- ・今後も器械出し看護のスペシャリストを目指したい。



EPA 候補者受入れ事業の振り返りについて

○受け入れて良かった点

- ・ 看護師候補者2名が日本語という大きな壁を乗り越えて、目標に向かって頑張っている姿を見て、病棟スタッフを始めとする職員が刺激を受け、「自分も頑張ろう」とモチベーションが高まった。
- ・ 候補者2名とも、明るく前向きな性格もあって、病棟スタッフのムードメーカーになっている。患者さんにも、温かい目で見守ってもらえ、励ましの言葉を頂いていること。

E P A 候補者受入れ事業の振り返りについて

○今後の課題

- ・ 候補者とスタッフの間で、当初、言葉の壁やコミュニケーション不足もあり、お互いを理解し、本人たちのニーズを知るのに時間を要した。
- ・ 看護師国家試験合格に向けて、日本語を含めた教育指導ができるスタッフの育成。
幸い看護師経験のある外部日本語講師に指導を依頼することができたが、通年で、総合的に候補者の教育指導を行えるスタッフの育成が必要。
- ・ 看護師国家試験合格後に看護師として勤務する際の持続的な教育、研修体制の構築。
看護の現場で、コミュニケーション、読み、書き全てを含めた日本語運用能力が問われている。
(現在も日本語講師による講義を継続して受講している。)

当院の教育担当者、生活支援担当者とともに

